



## Unified CCX のロールバック

---

この章では、アップグレードをロールバックする方法について説明します。

- [ロールバックの重要な考慮事項, 1 ページ](#)
- [単一ノード設定のアップグレードのロールバック, 2 ページ](#)
- [HA 設定のアップグレードのロールバック, 2 ページ](#)
- [ロールバック後のデータベース レプリケーションのリセット, 3 ページ](#)
- [Unified CCX クライアントのロールバック, 3 ページ](#)
- [ロールバック後の履歴レポート ユーザへの影響, 3 ページ](#)

## ロールバックの重要な考慮事項



注意

---

アップグレード後に行った設定またはレポートのアップデートは、ロールバック時に保存されません。

---

- ロールバック後に変更は失われるため、ロールバック中に設定に変更を加えないでください。
- HA 設定では、最初のノードと 2 番目のノードの両方のバージョンを同時に切り替えないでください。最初のノードでバージョンを切り替えてから、2 番目のノードでバージョンの切り替えを実行します。

# 単一ノード設定のアップグレードのロールバック

## 手順

---

- ステップ 1 バージョンの確認と切り替えの実行
  - ステップ 2 [Unified CCX のバージョンの確認](#)
  - ステップ 3 サービスのステータスの確認
  - ステップ 4 [Unified CCX クライアントのロールバック](#), (3 ページ)
- 

## 関連トピック

[バージョンの確認と切り替えの実行](#)

# HA 設定のアップグレードのロールバック

## 手順

---

- ステップ 1 バージョンの確認と切り替えの実行。最初のノード上でバージョンの切り替えを実行します。
  - ステップ 2 バージョンの確認と切り替えの実行。2 番目のノード上でバージョンの切り替えを実行します。
  - ステップ 3 [Unified CCX のバージョンの確認](#)
  - ステップ 4 サービスのステータスの確認
  - ステップ 5 [Unified CCX クライアントのロールバック](#), (3 ページ)
  - ステップ 6 [ロールバック後のデータベース レプリケーションのリセット](#), (3 ページ)
  - ステップ 7 [Unified CCX データベース レプリケーションの確認](#)
  - ステップ 8 [シスコ データベースのレプリケーションの確認](#)
- 

## 関連トピック

[バージョンの確認と切り替えの実行](#)

# ロールバック後のデータベース レプリケーションのリセット

旧バージョンの Unified CCX にロールバックする場合、HA 設定では、クラスタ内のデータベース レプリケーションを手動でリセットする必要があります。

## 手順

- ステップ 1 管理者のユーザ名とパスワードを使用して、Cisco Unified Communications OS プラットフォーム CLI にログインします。
- ステップ 2 `utils uccx dbreplication reset all` コマンドを入力してデータベース レプリケーションをリセットします。

# Unified CCX クライアントのロールバック

## 手順

- ステップ 1 Unified CCX Editor をアンインストールします。
- ステップ 2 Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool をアンインストールします。
- ステップ 3 Unified CCX のユーザ名とパスワードを使用して、**Cisco Unified CCX Administration** にログインします。
- ステップ 4 [ツール (Tools) ] > [プラグイン (Plug-ins) ] を選択します。
- ステップ 5 [Cisco Unified CCX Editor] をクリックし、Unified CCX Editor をインストールします。
- ステップ 6 必要に応じて、[Windows用のCisco Unified Real-Time Monitoring Tool (Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool for Windows) ] または [Linux用のCisco Unified Real-Time Monitoring Tool (Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool for Linux) ] をクリックし、Unified RTMT をインストールします。

# ロールバック後の履歴レポート ユーザへの影響

Unified CCX を最近のバージョンから以前のバージョンにロールバックした場合は、最近のバージョンで作成した履歴レポート ユーザの特権は保持されません。これらのユーザは履歴レポートにアクセスできなくなります。以前のバージョンへ戻した後に、ユーザのレポート機能を更新します。

レポート機能を更新するには、次の手順を実行します。

## 手順

---

- ステップ 1** Unified CCX のユーザ名とパスワードを使用して、Cisco Unified CCX Administration にログインします。
- ステップ 2** [ツール (Tools) ]>[ユーザ管理 (User Management) ]>[レポート機能 (Reporting Capability) ]を選択します。
- ステップ 3** 更新するユーザを選択します。
- ステップ 4** [更新 (Update) ]をクリックします。
-